

「八事錯視 (Yagoto Illusion)」

小林由佳 (中京大学心理学部 4 年生)・高橋康介 (中京大学心理学部准教授)

E-mail: kobayashiy333<at mark> gmail.com

〒466-8666 愛知県名古屋市昭和区八事本町 101-2 中京大学心理学部

Tel : 052-835-7185

中京大学心理学部は名古屋市営地下鉄八事駅に直結している。写真 (YagotoStation.jpg) はその八事駅の古びた壁である。ある日、壁をボーッと眺めていると、タイルにさまざまな色が薄っすらと見えることに気づいた。

よく見ると実際には壁に色はついていないようである。しかも、見るたびに見える色は違う。したがって、これは灰色パターンに色がついて見えるという錯視ではないかという結論に至った。

検証のためにグレースケール画像で似たような幾何学的パターンを作成した (YagotoSakushi01.png)。やはり同様に薄っすらと色が見える。試しに錯視に詳しくない人を含めた 7 人に、このパターンが色づいて見えるかどうか尋ねたところ、7 名中 5 名が、確かに色が見えると答えた。参考までに、主観的な見え方の印象も作成した (YagotoSakushi02.jpg)。こちらは実際に薄く色が付いている。

ベンハムの独楽のように、白黒の入力パターンが動くときに主観的に色が見える錯視はすでに知られているが、静止画でも色が見えるという点で、我々が知るかぎりにおいては新奇な錯視と言える。

色が見えるための必要条件は不明であるが、ベンハムの独楽に比べてより単純であり、今後、空間周波数、形状、輝度などについてさまざまな実験的検証を行うことで、色知覚のメカニズム解明に大いに寄与できる錯視であると考えている。